王の名によって／花の名によって

HIRO.T

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
王の名によって／花の名によって

【Ｎコード】
Ｎ４９４２Ｅ

【作者名】
ＨＩＲＯ．Ｔ

【あらすじ】
その名によって宣言せしものは…？

野営の場所を定めてそれぞれが支度を始める。
様子を伺いながら仲間たちの間をすり抜け、森を抜けた小高い丘の上にフィルは立った。
緩やかな風がウェーブのかかった髪をなびかせる。
赤みの強い髪は夕陽を受けて燃えているようだった。

夕食の準備が出来上がったと呼びに来たエリスは、その後ろ姿に見惚れていた。
ようやくフィルの片腕と言われるようになり隣に立つことを許されたが、エリスにとって未だにフィルは憬れの存在だった。
ゆっくりと陽が沈み、辺りに闇が落ちる。
それでもまだエリスは声をかけることを忘れていた。
「何かあったのか？」
恐らくエリスがここに来た時から気付いていたのだろう、振り返ったフィルは悪戯な笑みを浮かべて声をかけた。
「えっ…あ…」
「良い匂いがしてきた。夕食か」
「そうです！　忘れてました。すみません」
「どうして忘れたか、理由は聞かないことにしておくよ」
そう言うことで理由が知られていると悟ったエリスは、顔を真っ赤にして抗議の言葉を口にした。
「どうしてそう意地が悪いのですかっ！　それがなければ……」
「金持ちから金をふんだくれる、か？」
「そうです！」
即答するエリスにフィルは大きな声で笑った。
「さすが盗賊の右翼」
「がめつさではギルの右に出る者はいませんけど」

「確かに。あいつに任せればガラクタもお宝の値段で売り払える。得難い才能だ」
　同意をしあって野営地に戻ろうとした時、足元に小さな花を見つけた。
　名もない小さな花。
　それは今いるロハという国だけでなく、世界中に生えている雑草の一種だった。
「このお花、お好きですよね？」
「ああ」
「昼に咲いたり夜に咲いたり、気まぐれでご自分に似ているからですか？」
　言い返せそうにない正論にフィルは苦笑して見せ、
「面と向かって言いにくいことを言う」
「さすが盗賊団の右翼、でしょう？」
「ああ。その通りだ」
　笑いながら肩をすくめて花を一輪手折る。
　そして振り返って遙か彼方を見つめた。
「エリス。あの光が見えるか？」
「ええ。あれは王都…ですよね」
「そうだ。ロハ国の要。王の住まう場所。———国王ガラムはあの場所で宣言した。北の山脈から南の海岸線まで全てがロハであると。そしてそれを統治するのは自分だと王の名の下に宣言した。だがエリス、私はあの男が即位する前からこう言っている『この花の咲く地、全てが私の生きる場所だ』と」
「他国の王は一盗賊が何を言っているのかと流していますけれど、ロハの王は熱心に情報を集めているようです。何故でしょう？」
「決まっているだろう？　疚しいことがあるからだ」
「清廉潔白な王族、公明正大な王、どちらも物語の中にしかいないでしょうに」
　エリスの口から辛辣な言葉が紡がれると、フィルは大きく頷いた。

「即位して五年。そろそろ地震が起こる頃だ」
「随分と気になさっておいでですけれど、国王の座に興味がおありですか？」
「あるように見えるか？」
「いいえ。全く」
あっさり答えたエリスに微笑を向け。
「だが陰謀には興味がある。どさくさに紛れてお宝を頂けるチャンスがあるからな」
「ギルに教えたら悶絶しそうなお話ですね」
「そうだな。その姿を見るとしようか。腹も減った」
「ああ」
すっかり忘れていたとばかりにエリスは両手を打ち鳴らして、道を促した。
闇に煌めく都の明かりは美しい。
けれどその中にはどれほどの悪意と憎悪が渦巻いていることか。
それに比べて闇の中にひっそり咲く花には一片の悪もない。
（どちらがこの天と地を統べるか、考える必要もない）
エリスはそう強く思ってフィルの背中を見つめた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4942e/

王の名によって／花の名によって

2010年10月10日03時13分発行